

Economic Indicators

発表日：2020年7月8日(水)

国際収支(2020年5月)

～経常黒字は前年比で約3割減、6月は改善を見込むも4-6月期は前期比で大幅悪化に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支			
					貿易収支	サービス収支		
2019	5月	16,311	13,320	▲ 4,037	▲ 3,804	▲ 232	18,246	
	6月	12,532	18,744	2,440	1,224	1,216	18,153	
	7月	20,233	16,864	44	523	▲ 479	17,744	
	8月	21,351	16,003	160	484	▲ 324	17,229	
	9月	15,571	14,213	▲ 515	▲ 232	▲ 283	16,526	
	10月	18,182	16,918	1,949	1,229	720	15,996	
	11月	14,206	17,715	1,750	842	907	17,577	
	12月	5,094	18,484	3,306	1,805	1,501	16,300	
	2020	1月	6,267	16,370	▲ 1,208	▲ 615	▲ 593	18,967
		2月	31,464	23,282	4,822	8,184	▲ 3,362	19,894
		3月	19,268	8,891	▲ 4,691	▲ 1,407	▲ 3,284	14,629
		4月	2,627	2,524	▲ 12,939	▲ 10,235	▲ 2,705	16,876
5月		11,768	8,211	▲ 7,334	▲ 5,412	▲ 1,922	17,621	

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支は前年比▲27.9%と大幅悪化、輸出の減少から大幅な貿易赤字が続く

5月の経常収支(原数値)は11,768億円の黒字(コンセンサス:10,836億円の黒字、レンジ:2,372億円の黒字~12,185億円の黒字)とコンセンサスをやや上回る結果となった。季節調整値では8,211億円の黒字(前月比+225.3%)と、経常黒字額は4月から大幅拡大も1兆円を切る水準が続いた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、輸出が大幅に減少したことや旅行収支の低迷が続いていることが主因である。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易・サービス収支は▲7,334億円の赤字(4月:▲12,939億円の赤字)と赤字幅は大幅に縮小した。貿易収支が▲5,412億円の赤字と、赤字幅が4月(▲10,235億円)から大幅に縮小したことが主因である。ただし、内容をみると輸出が前月比▲5.4%、輸入が同▲12.6%と輸出入ともに減少しており、貿易赤字の縮小は輸出以上に輸入が落ち込んだ結果であるため、内容は良いとは言えないだろう。5月は新型コロナウイルス感染拡大による影響で輸出入は4月に引き続き減少、輸入については原油価格の低迷が大きく影響した。サービス収支については▲1,922億円の赤字と、5か月連続の赤字となった。輸送収支、その他サービス収支の赤字が続き、旅行収支の黒字も訪日外客数、出国日本人数の急減から低水準での推移となった(旅行収支 4月:158億円の黒字→5月:184億円の黒字)ことにより、サービス収支の赤字は続いた。

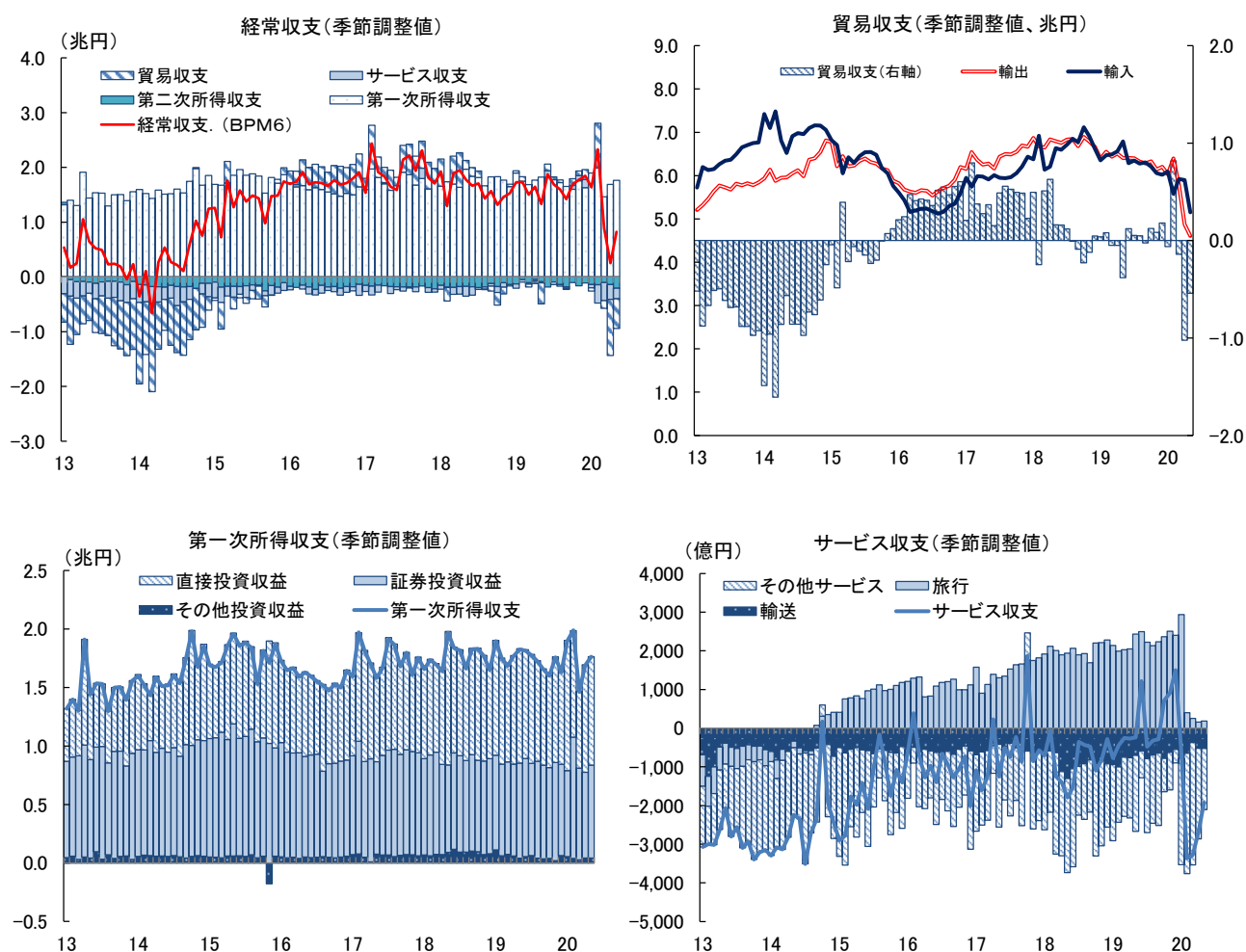
第一次所得収支は17,621億円の黒字(4月:16,876億円の黒字)と黒字額は4月から2か月連続で増加した。貿易・サービス収支の大幅な赤字が続く中、第一次所得収支の黒字が経常収支を支える構図が続いている。

○ 4 - 6月期の経常収支は前期比で大幅に悪化、先行きは持ち直しが見込まれるもペースは不透明

以上の通り、5月の経常収支は4月から黒字額は拡大するも、季節調整値で1兆円を切る低水準の結果となった。新型コロナウイルス感染拡大に伴う貿易赤字、旅行収支の低迷が主因である。

6月については、5月に引き続き貿易収支の改善を主因に、経常収支は季節調整値で黒字幅が拡大すると見込む。6月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比▲25.2%、輸入が同▲18.4%と大幅に減少しているものの、前月比で試算すると輸出は5月から増加、輸入は減少となる見込みで、6月の貿易収支は改善するとみている。その後も各国での経済活動再開を主因に、輸出は持ち直しを続けていくだろう。低水準での推移が続く旅行収支については、足下で一部の国・地域を対象としてビジネスを目的とした訪日客の入国制限緩和が検討されているなど、訪日外客数回復に向けた動きが進んでいる。とはいえ、実現にはまだ時間がかかる見通しであることや、緩和となっても人数が限られていることなどから、当面の間、旅行収支は低水準での推移が続くだろう。

4 - 6月期の経常収支は1 - 3月期から大幅に悪化する公算で、前期比▲50%程度の減少幅となるとみている。7 - 9月期以降については、各国の経済活動再開に伴い輸出が持ち直していくことで、経常収支の黒字は拡大していくと予想する。とはいえ、新型コロナウイルスの再度の感染拡大やそれに伴う経済活動の制限、米中関係の悪化などリスクもあり、持ち直しのペースは不透明感が強い。



(出所)財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。